

# 老健本来のあり方を追求し 既存施設を別棟でユニット化

医療法人鴻池会「鴻池荘」ユニットケア棟

医療法人鴻池会（平井基陽理事長）は、奈良県御所市を中心に地域医療を展開する一方で、奈良県初の介護老人保健施設「鴻池荘」を開設するなど、古くから医療と介護を両輪に地域に貢献してきた。そんな同法人が打った次なる一手は、「鴻池荘」敷地内にオープンした介護老人保健施設のユニットケア棟である。今回は、全国でも珍しいモデルケースとなる同法人の取り組みを紹介する。

## 効果的な自立支援をめざし 老健のユニット棟開設を決意

医療法人鴻池会の前身となる鴻池病院は1928年に開設。法人発足後、



平井基陽理事長（写真右）と平井政規専務理事

新たに開設した秋津病院と合併し、73年に現在の秋津鴻池病院（544床）が生まれた。一般外来だけでなく精神科病棟や老人性痴呆疾患治療病棟にも実績があり、88年には奈良県で初めての介護老人保健施設「鴻池荘」（162床）を開設するなど、医療だけでなく高齢者福祉にも力を注いできた。

2005年3月、同法人は病院を退院した高齢者への効果的なADL向上を目的に、鴻池荘の敷地内に病床を分割させ「ユニットケア棟」（定員12人）をオープンした。同法人理事長で秋津鴻池病院院長も務める平井基陽氏は、ユニットケア棟開設の経緯をこう語る。

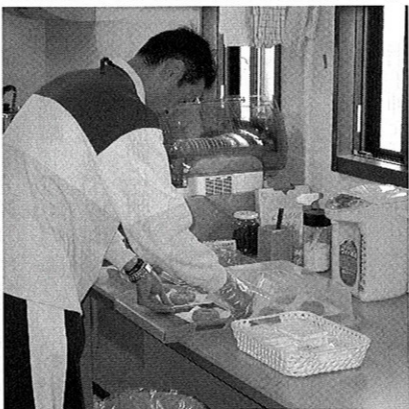
「老健は病院を退院した患者様が自宅へ戻る自立支援の場。老健本来の使命を追求し、短期間での在宅復帰を支援

するためユニット棟開設を計画しました。01年に開設したグループホームの運営により、ユニット単位の小グループでケアするためのノウハウを蓄積できたので、別棟を構えることでハード・ソフトの両面から入所者を支援することができると考えています」

同じユニットケアでも特養とは一線を画した新しい取り組みに挑戦した同法人は、専務理事の平井政規氏を中心にユニットケア棟の介護職員を交え、同施設の計画・コンセプトづくりに着手。施設から自宅への移行をスムーズに行うため、リハビリに用いるような一般的な平行棒などは一切持ち込まず、日常生活を通して自然にリハビリができるようアメニティーの細部に至るまで気を配った設計が大きな特徴。

「自宅生活に近い環境づくりにこだわり、トイレも自動洗浄タイプにせず、あえてご自身で洗浄レバーを押すようにしています。便利な生活を提供することは簡単ですが、自宅へ戻られた時にADLが低下しているようでは本末

自宅生活の延長を意識し、料理をはじめおやつなどもリビングから見える位置で配膳している



物のトータルバランスの良さに改めて驚かされたという。

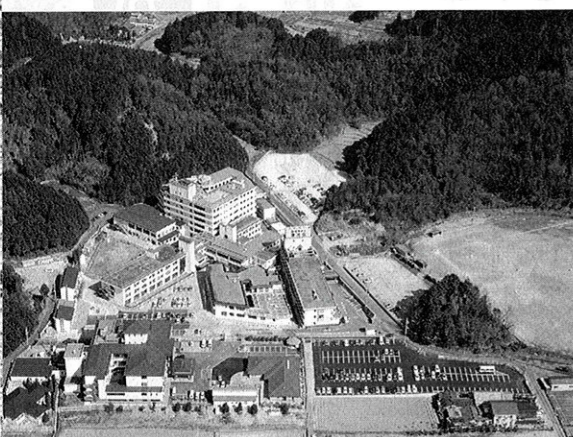
ユニットケア棟の個室利用料金は1日当たり5250円（税込）。今後、実施される食費や居住費の自己負担化を見すえ、同法人では空きベッドを効率的に活用するためショートステイの利用を視野に入れていくという。

「ショートステイから発展させて、訪問・通所サービスを付加させれば、将来的には、小規模多機能型居宅介護サービスも実施できるのではと考えております」（平井理事長）

近年、施設フロアをユニット化させた老健は見られるようになったが、同法人のようにユニットケア棟として独立した建物を構えることは、全国的にも珍しい取り組みだ。奈良県の理解がなければ実現できなかったと話す平井理事長。ユニットケア棟を承認した奈良県も今後の同法人の先進的な取り組みに関心を寄せていることだろう。



広さにこだわった開放感あふれるリビングスペースには、入所者が自然と集う



医療法人鴻池会全体図

そうしたなかパナホームは、奈良支社エイジングセンターの森井成和所長と本社エイジングライフ部の永山弘之課長が足繁く通い、常に法人の立場に立った具体的な提案を進めてきた。

「森井さんや永山さんには設計図面の細かい打ち合わせのため、何度も来ていただきました。当法人のユニット棟建設に対する思いを集約させるため、常に設計面でコンサルティンクをしてもらい、要望にも前向きに取り組んでもらえたので満足なプランができました」と平井専務理事も語るように、前向きで具体的なコンサルティンクが決め手となり、早い段階からパナホームでの建設を決定したという。

前述のとおり、ユニット棟が自分の「家」のような場であることを入居者に意識させるため、施設色を排し、個室・共有スペースを含め広さや明るさを

にこだわった。さらに、リハビリ機器を用いず日常生活でリハビリを実践するため手摺りの位置から共有トイレの便座の高さを調節するなど、細部に至るまでユニットケア棟スタッフの意見を平井専務理事がまとめながら打ち合わせを重ねた。こうして完成したユニットケア棟は、周囲の景観に溶け込んだ平屋造りの建物に仕上がった。完成後も細かい相談があると、森井氏はすぐに駆けつけているという。

「エイジングライフ部の全国600カ所を超える介護施設建設ノウハウを生かし、鴻池会様のご要望にお応えするため注文住宅のような製品ができました。まさに当社と鴻池会様の共同開発と言える建物ですね」（森井氏）

平井専務理事も当初、初期投資費用削減を目的に住宅メーカーに依頼したが、完成後、パナホームが手がけた建

**PanaHome**  
**Sunresta** 高齢者共生住宅「サンリスタ」**新商品**

### アクティブシニアを応援する 高齢者共生住宅「サンリスタ」、新登場。

「サンリスタ」は、自立してくらしていきたい元気高齢者“アクティブシニア”が見守りや入居者同士のふれ愛の中で生き活きと過ごせる安心の住まい。所有地を活かして今後の高齢者ニーズに応えたい事業主さまへ、安定した高齢者住宅事業を提案します。

あなたの土地を 高齢者住宅事業に活かしませんか？

**事業者募集** **サンリスタ運営事業者募集!**

※募集条件等、詳しくは下記へお問い合わせください。

初年度全国 **30ヶ所**

資料請求券  
サンリスタ  
フェイス3  
7月号

お問い合わせ・資料ご請求は **パナホーム株式会社** ホームページ <http://www.panahome.jp/mw>  
エイジングライフ部 〒560-8543 大阪府豊中市新千里西町1-1-4 ☎06-6834-3818 Fax.06-6834-4329

サンリスタの資料差し上げます。  
ご希望の方はハガキ・FAX用紙に住所・氏名・年齢・職業・勤務先・電話番号・ご計画事業をご記入の上、資料請求券を貼ってお送りください。

転倒です。終の棲家となる特養とは性質が異なりますから」と、平井専務理事は老健のあるべき姿を強調する。

現在、ユニットケア棟の入居率は100%。入居者は要介護度1〜4まで幅広いが、自室に閉じこもることなく、共有リビングに集まり編み物をするなど、各自思い思いの時間を過ごす。

## 他社が対応できない分野も パナホームは積極的に設計提案

鴻池荘ユニットケア棟の立ち上げを計画後、同法人はパナホーム株式会社を含めハウスメーカー4社に設計を依頼した。しかし、グループホームやデイサービスなどの設計・施工経験はあるものの、老健の建設に携わったメーカーはどれも、他の3社からの提案は同法人のニーズを満たさなかった。



鴻池荘から敷地内に隣接する「ユニットケア棟」